

ほんま進 県議会だより

vol.10

ご意見・ご要望をお聞かせ下さい。

ほんま進 事務所

〒260-0824千葉県千葉市中央区浜野町1408

TEL.043-268-1100 FAX.043-263-9568

URL http://www.s-honma.jp/ Email s-honma@mbr.nifty.com



9月定例 一般会計補正予算額

129億9,700万餘円

9月定例県議会は9月26日招集され、10月22日に閉会されました。10月22日の閉会前に提出された一般会計補正予算案、各種条例案、その他附帯議案22議案のほかに報告4件でした。森田知事から、2020年オリンピック・パラリンピックが東京で開催されること、海外のアスリートや観光客を温かいおもてなしの心で迎えるなど、大会が成功するよう千葉県として最大限協力していく考えを述べました。

また、9月2日に野田市で発生した竜巻被害に対する被災者支援について、被災した住宅の再建については、国に対して柔軟な対応を要望してまいりました。国からは今回の被害に対し、被災者生活再建支援制度は適用できないとの回答があったことを明かし、千葉県では国の制度に準じた独自の支援制度を創設するとともに、国の制度の対象とならない半壊被害に対し補修費を助成することとしたと報告されました。被災者の支援に全力で取り組むと発言されました。

また、この総合計画を着実に推進していくためには、確かな財政基盤の確立が不可欠なことから新たに行政改革計画・財政健全化計画案を取りまとめ行政改革計画では「公正透明な行政運営の確立」「組織・人材改革」「仕事改革」及び「資産改革」の4つの改革の

視点・基本的方向に沿って、県庁一丸となって徹底した業務の効率化を図り、取組みます。さらには、財政健全化計画では、厳しい財政状況を踏まえ、「建設地方債などの実質的な負債残高の抑制」「健全化判断比率に留意した財政運営」及び「財政調正基金の更なる造成」の3つの基本目標を掲げ、「持続可能な財政構造の確立」を目指すと述べました。続いて、平成25年度一般会計補正予算案は、129億9,700万円の増額で補正後の予算額は、1兆5,964億5,100万円であります。今回の補正予算案は、新たな総合計画案を推進するための予算について計上したと発言されました。その主な内容は次のとおりです。

千葉県に統合型リゾート（IR）議員主導で推進決議を可決。

千葉県議会は10月22日、成田空港のノンストップゲート化や待機児童解消のための子育て環境改善策を盛り込んだ129億9700万円の今年度一般会計補正予算案など22議案を可決しました。

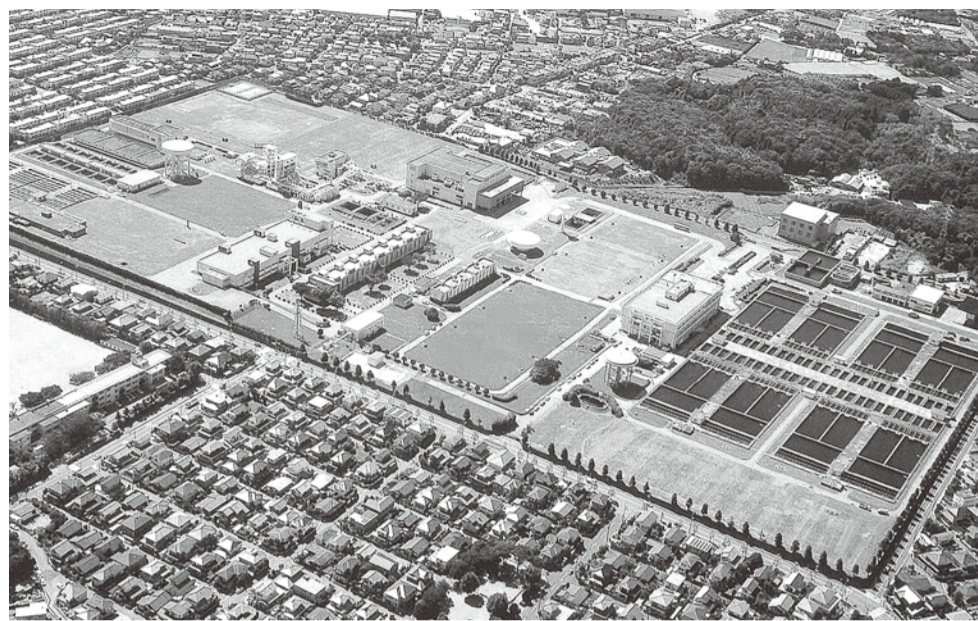
また、統合型リゾート（IR）の整備を積極的に推進する決議と国に法整備の早期実現を求める意見書を賛成多数で可決しました。

そして、10月31日、私、ほんま進が会長を務めるIR議連の自民党、民主党の県議が都内の衆議院議員会館などを訪問し、県選出の国会議員29人に決議文と意見書を提出しました。

（関連記事2面）



柏井埋設汚泥の状況と各浄水場の放射性セシウムの数値は？



柏井浄水場



ちば野菊の里浄水場

総合企画水道常任委員会において、柏井浄水場の高度浄水処理施設建設の遅延について質問をいたしました。「ほんま進」

柏井浄水場の埋設汚泥について、その後の状況はどうか。浄水課長から、地元自治会に対し、ご説明するとともに、住民の方へヒアリングを周知に努めました。放射性セシウムへの漏出がないことから、住民の方々は冷静に受け止めていただいていると考えます。また、週1回の放射性セシウム濃度測定は続けており、漏出がないことを確認しております。

また、週1回の放射性セシウム濃度測定は続けており、漏出がないことを確認しております。埋設汚泥対策についても局内で引き続き検討を続けており、対策の前提となる調査業務を発注したところであります。

【ほんま進】要望

今後の汚泥対策については、地元住民への影響が懸念されるため、対策方法を十分検討し、住民への説明を怠らないよう進めていただきたい。柏井浄水場の西側施設への高度浄水処理導入が、他の浄水場への導入計画に遅れが生じないように、しっかりと検討してもらいたい。

柏井浄水場の放射性セシウムについて質問しました。「ほんま進」

放射性セシウムの各浄水場の数値は減っているのか。前は498ベクレルと、北総浄水場で高かったが、その後、放射性セシウムの

数値がどれくらい下がったか。一番最近の数値を教えてください。

浄水課長から、10月2日に採取した測定結果があります。それにより、柏井浄水場東側施設で249ベクレル、柏井浄水場西側施設で228ベクレル、北総浄水場で153ベクレル、ちば野菊の里浄水場340ベクレルであり、いずれも、セメント原料などの再利用可能なレベルになっており、再利用を行っております。

総合企画水道常任委員会において、千葉県水道局における利根川水系の湯水対策について質問をいたしました。「ほんま進」

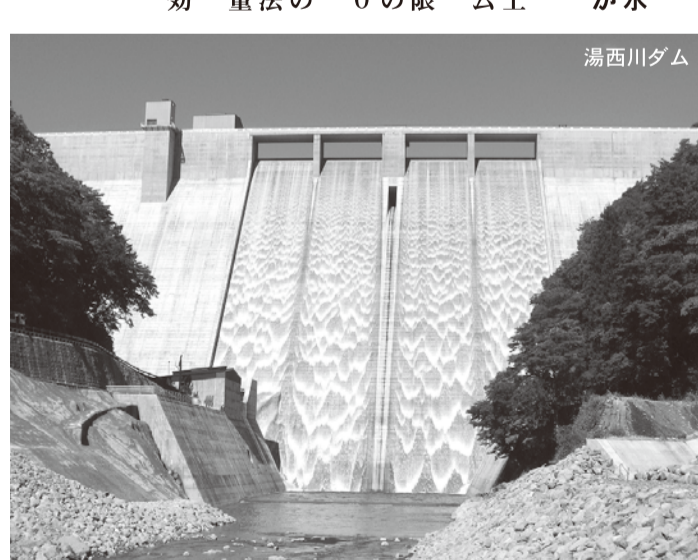
今、水道局が行なった対策により、どのような効果があったのか。

浄水課長から、7月24日から給水制限を実施したところですが、給水制限開始前と制限後の10日間を、一日平均給水量で比較すると、給水制限前では約91万立方メートル、制限後は約75万立方メートルで減少しています。この要因としては、お客様様の節水への協力と配水圧力の若干の減圧により給水量が減ったものと考えています。

【ほんま進】

昨年11月に湯西川ダムが完成したが、今の湯水対策に、どのような効果があったのか。

計画課長から、利根川水系には利根川上流8ダムと鬼怒川に4ダムの計12のダムがあります。これらのダムの取水制限期間中の最も少ないときの総貯水量は、約2億4,900立方メートルでした。このときの湯西川ダムの貯水量は、約3,400立方メートルであり、総貯水量に対して13.7%です。湯水に対しては、効果があつたと考えます。



湯西川ダム

今夏の節水対策実施時の湯西川ダムの貯水量は総貯水量に対して13.7%

ホルムアルデヒド検出に係る損害賠償請求訴訟の提起

総合企画水道常任委員会において、平成24年5月に化学メーカーDOWハイトックが、ヘキサメチレンテトラミン廃液を産業廃棄物として処理委託を必要とする施設能力の確保や必要な情報の提供を怠ったため、廃液が十分に処理されず、利根川上流域に排水され、下流浄水場でホルムアルデヒドを生じさせる障害を起し、大規模な断水を発生させた問題について質問をいたしました。「ほんま進」

今年2月の常任委員会の局長あいさつで、1都4県の水道事業者で訴訟提起を含めて協議しているとの報告があつたが、だいぶ時間が経ったが、なぜか浄水課長から、関係者からの聞き取りや事実関係の精査などを行なうとともに、法的責任の主張や立証方法の検討などに時間を要したと述べました。また、給水停止や応急給水に至った千葉県内の7つの水道事業者と、その中で3県の4事業者では、対応や損害が大きく異なるため、訴訟進行方針や主張、立証方法の調整に時間を要しました。

【ほんま進】

訴訟提起の相手であるDOWハイトックは、なぜ支払えないと言っているのか。また、こちら側はそれに對してどう言っているのか。浄水課長から、廃液処理委託した業者の処理能力の調査や処理を委託した業者に対して当該物質の存在及びホルムアルデヒドの生成の危険性についての情報提供を行わず、これらのことが、民法上の不法行為に該当するとの主張

と、不法行為責任の具体的内容を明らかにし、支払いに迫ることは困難であることと述べました。こちら側としては、相手企業は平成15年に同様の事故を起しており、事故の原因物質について危険性や処理方法、その物質が河川に流出するとうなるかという点について、十分な知識を有していたと考えられます。

それにもかかわらず、廃液処理を委託した業者の処理能力の調査や処理を委託した業者に対して当該物質の存在及びホルムアルデヒドの生成の危険性についての情報提供を行わず、これらのことが、民法上の不法行為に該当するとの主張